

議長 会議を再開致します。 (午前10時40分)

々 それでは続いて、高良議員の一般質問を行います。1番高良議員。

1番 高良議員 皆さん、おはようございます。高良でございます。今年、なかなか雨が降りませんで先ほど石川議員も言われておりましたが、人間共々、作物もたいへん勢いが悪うございます。私共も外の仕事をしておりますのでいい加減には熱中症で倒れそうな思いで毎日仕事をしております。

通告書に従いまして質問を致します。

この度は「三江線の利用促進活性化について問う」ものでございます。三江線の利用促進活性化については、今日の社会事情を考えますと非常に利用しにくい面がある事も確かではございますが、このままでは最近、廃止・廃止と言われておりますが存続の危機に繋がる事は免れないところでございます。そこで川本町として今後どのような取り組みをしていくのか、その取り組む方向性或いは具体案を問うものでございます。三江線は昭和5年に江津・川戸間が最初に開通したのがそもそもの始めでございます。それから川本まで線路が伸びましたのが昭和9年という事で、今、生きておられる方ではその線路が付いて感激されたという記憶があるような方は90歳以上か90前後以上の方かなと思うところでございます。それから三江南線、三江北線と名前を変えたりしまして、現在に至っている訳でございますが、最近ここ昨年の10月から社会実験として三江線の利用促進にどのような手が打てるか、或いはどのような潜在的な要望があるのかを確かめる実験が行われました。こうなりましたのも、元々は昭和9年とか30年代40年代の利用人口に比べまして平成に入りまして、だんだん利用数は減りまして、平成24年に至っては年間220人から230人というところに至っております。このような利用者の低迷というのは、この川本に在りました事業所の減少或いは通学に使っておりました子どもの数の減少という事が大きな理由であろうと思われまます。ただこの三江線というものは先ほど申しましたように歴史が非常に長い、又、沿線も108.1kmですかありまして、駅の数も芸備線に次いで多い駅の数を持っていると思います。それを今いきなりこれを無くすという事は非常に心の支えを失うような大きな問題をはらんでいるのではないかと思うところでございます。現在、存続に向けて取り組んでいる取り組みは3月の定例議会で青木議員の質問にありましたが、そこに町長の答弁で三江線春キャンペーン、乗車券割引特典、桜ウォーキングコース等、いろいろフォトコンテスト、神楽列車等を答弁されております。これがどの程度の実績を残すものか未だその事例が少ないために、はっきり分からないところではございますが、今、三江線活性化協議会の方で取り組んでおります取り組みに臨時列車の運行、これは「ワイン列車」とか「スイーツ列車」、「神楽列車」、「酔いどれ地酒列車」、「ひよっとこ踊り列車」、「サンタクロース列

1 番
高良議員

車」等、いろいろ各市町村が特色を出して取り組んでおられます。ただこれをJRの採算の人数まで上げていくという事になるとちょっと採算性がどの辺にあるのかは私が調べる事が出来ませんでした。そこまで持つていくためには可成りの臨時列車の運行の便数ですね、これを増やしていく回数を増やさないとなかなか辿り着けないような気がします。5月25日でしたか、三江線利用促進活性化フォーラム in 川本というのがございました。その中の意見でも、この三江線の沿線風景、江の川と山と、その風景はたいへん素晴らしいと、これは残すべきものではないかというような意見も出ておりました。又、私が5月、ちょっと日にちははっきり忘れましたが5月だったと思うのですが、弓ヶ峯八幡宮の方で仕事をしておりまして、そこへ偶々、三江線に乗って来たという方が来られまして少しお話しをしたのですが、「どうですか」という感想を聞きましたら「いやぁ初めて乗ったけど驚いた。これだけ景色の良い路線はそんなに無い。」という事で、「どちらから来られましたか」と聞いたのですが「広島の方から来たんだけど、ご飯を食べる所が分からない。」という事で、どこかで食べれないだろうかというようなお話しをした記憶がございます。このような状況なのですが、三江線の活性化については川本町の町民の何と言いますか、やる気というかイノベーションに直接繋がるというか、そういうものが私はあるような気がします。現在、三江線活性化協議会の方で今後の取り組みとしまして、基本方針を定められております。この三江線の基本方針の策定の背景及び計画の目的の中には風光明媚な風景、江の川、山の食資源の観光面で人を呼び込める可能性を持った素材が有るにも関わらず、これらを活かし広域的に連携して三江線の利用や沿線の活性化に結び付けているとは必ずしも言えない状況にあるとあります。要は素晴らしい景色もある、又、鮎とかツガニ、ウナギ、そういう川の資源もあるが、これが観光に結びついていない。或いは文化でも石見神楽そういう有名なものがあるんですが、これが直接観光に結びついていないという指摘をされまして、そういうのを踏まえまして三江線総合連携計画基本方針というのが定められております。これは沿線5市町村、三次市・安芸高田市・邑南町・美郷町・川本町・江津市の区域で策定されているものでございます。こういう計画が基本方針が定められて皆さん5市町村が全部一丸となって出来ればそれは確かに素晴らしい事だと思うのですが、先ず今からこれは27年の何月かまでの計画だったと思うのですが、それに向けて川本町がどのような取り組みをされていくのか問うものでございます。答弁をお願い致します。

議 長

それでは、高良議員の質問の「三江線利用促進活性化について問う」に対する、答弁をお願い致します。番外左田野まちづくり推進課長。

番外左田野
まちづくり

失礼します。1番高良議員のご質問の「三江線利用促進活性化について」の問いに答弁させていただきます。

推進課長

議員のいろいろご指摘の中にもございましたとおり、三江線沿線のほとんどは中山間地域でありまして、人口減少・少子高齢化の進展などにより沿線人口が減少しております。又、沿線の道路整備が進むと共に自家用車が普及し、通勤や通学、通院等で三江線を利用する人は減少の一途をたどっております。1日あたりの乗車人員は平成4年度の1,409人に対しまして、平成24年度は226人と6分の1以下になっております。沿線6市町では三江線活性化協議会などを設置して、活性化事業などに取り組んできており、利用拡大を図るべく日常利用拡大の可能性や観光資源調査など各種の調査を行い、「生活鉄道」、「ふるさと鉄道」、「観光鉄道」としての利用により活性化を図るべく、地域ぐるみでの取り組みも実施してきましたが、未だ利用者の減少に歯止めがかからず厳しさを増している状況でございます。そのような中、JR西日本でも住民アンケートなどで出された「運転本数が少なく、利用したくても利用できないので三江線を増便して欲しい」との要望を受けて、バスを列車と見立てた増便社会実験を実施しました。増便社会実験においては、一定の利用者増はあったものの、平均乗降者数を押し上げるまでの数字は実現できませんでした。川本町では、三江線増便社会実験に合わせて、庁内にワーキンググループを設置して、町としての利活用策を検討し、おもてなし講演会の開催したり石見川本駅へのコインロッカー設置推進などを行ってきているところでございます。このワーキンググループでの検討につきましては、このたび設置したまちづくり推進プロジェクトチームに引き継ぐこととしており、町として利活用に向けた具体的な検討を、より進めていくこととしております。しかしながら、三江線の利活用の促進や活性化については、なかなか1つの町だけでは実現できないため、今後とも沿線市町や関係機関と連携を図りながら、利用促進等を図りたいと考えております。以上、総括答弁とさせていただきます。

議 長

ただいまの答弁に対しまして、再質問ございますか。1番高良議員。

1番
高良議員

今された答弁はだいたい想像が付くところではあるのですが、その例えば臨時列車を5市町村で相談して臨時列車を増やすとか、観光客を増やすとかいう具体的な手法をされていかないと、もう通勤・通学という日常の利用者の増を目指してもそれはもう不可能ではないかと。高校がこういう状況になり周辺高校で生徒の確保合戦が始まっている中で、通勤・通学にJRをとこの話は、もう出来ない段階になっていると思います。又、事業所がこれだけ減ってきますと又、先ほどありましたマイカーの普及という事もありましたが、個人個人の皆さんのニーズと言いますか行動・考え方が今は現代は多種多様となっております。昔のように1つで括るといような事がなかなか考えにしても出来ない時代でございます。その中で通勤に使って下さいと言ってもその後の移動が出来ないという事で、これも又、無理になってこようかと思っております。じゃあそういう中でも三江線を残したいのであれば、ど

1 番
高良議員

ういう方策を取っていくのか、そうすると自然と観光人口、要は入り込みの人口を増やさない限り、これはどうにもならないのではないかと思うところでございます。その辺のところの考え方を川本町さんとしては、どう思われているのかをもう一度お聞かせ願いたいと思います。

議 長

番外左田野まちづくり推進課長。

番外左田野
まちづくり
推進課長

先ほど最初の質問の中にもございましたが臨時列車等の運行のお話しもございました。昨年秋に三江線の増便実験と同時期に臨時列車を6本走らせております。これにつきましては、6市町と共に連携しております旅行代理店さんが企画された列車ではございますが、連携して走らせておまして、その時に360人の定員に対しまして200人オーバーの応募がありまして約200人の空席待ちが出たような状況でございました。各列車とも直前のキャンセル等がありまして空席が出ましたが、そういう状況で運行できたという事もありまして、そういう実績もございます。そういったところでそういったニーズも当然あるかと思っております。又、今後も8月末に婚活列車のような事の計画もされておりますし、いろいろの観光であるとかそういった部分での取り組みも当然されるべきだと思っておりますし、現在6市町でもそういった取り組みをしているところでございます。又、先ほど春キャンペーンのお話しがありましてウォーキングコースの設定とかもありました。春キャンペーンにつきましては桜をメインにしたところでございますが、秋のキャンペーンにつきましてはウォーキングコースを設定しまして各列車を使いながらウォーキングが出来るというコースを6市町で1案ずつ最低は出そうじゃないかという事で現在、進めております。川本としましては毎年秋に行っております因原の道の駅を発着点としたウォーキングコース、これは1コースと言いながら3パターン設定しておりますので、そういったものも提案したいと思っておりますし、実際に10月にこのコースを使ったウォーキングイベントも例年のように計画しているところでございます。又、この6市町で構成する団体としましても、1つ秋に全体としてのウォーキング大会をやろうじゃないかという計画も現在進めているところでございます。こういったところで議員ご指摘のございましたように生活だけではなかなか乗っていただく、又は人口を考えた時にもそれだけの人口が減ってきているところでございますので観光路線であるとか、その守るためにというようなところでの働きかけを今後も続けていかないといけないというふうに考えております。町としてという事でございましたが、先ほども町として出来るという事に非常に限りがあるところでございます。町として昨年取り組んだところでは皆さんで「おもてなし」の気持ちを情操しようという事で講演会を本町会館でしまして、弓市地区の方を中心にたくさんの方に参加をいただきました。いろいろ皆さんが感じたなという事も感想も言われましたので、そういった取り組みによりひとつひとつみんなで変わっていく事に取り組んでいか

番外左田野
まちづくり
推進課長

ないといけないと思っております。又そのワーキンググループの中で出た意見として先ほどもちょっとありましたが、長い時間、ちょうど1時間半程度、昼の時間で川本で停まる便がありますので、その間かなり歩いて下さっています時に重たい荷物を持って歩かれるという事がありますので、コインロッカーをこの夏の間には石見川本駅に設置して手ぶらとか軽い格好で歩いていただけるような取り組みもするように計画しております。又、先ほど食事の場所という事がありました。観光協会・商工会・町としてもそういった事をご案内するためのマップも作っております、駅の方にも標示しておりますが、なかなか気付かれなかったりする事も多々あるようでございますので、その掲示方法等についても、ロッカーの設置に合わせて考えていきたいというふうに思っております。

議 長

再質問ございますか。1番高良議員。

1番
高良議員

考え方は良く分かりました。私も同感でその先ほど言いましたように観光というか入り込みの人口で利用増を目指す以外に道はないと思っております。それでひとつ思うのですが、先ほど言いました江川と山とたいへん景観が素晴らしいという意見はこの間の5月25日のフォーラムでもあった訳ですが、立木ですよね、道路に立っている木が邪魔をして川が見えない或いは河原が見えないという意見も出ておりました。たぶんいろいろ問題は出てくると思うのですが、ちょっと前地域整備課長さんをご存知だと思うのですが川本日向線のこれは鉄道には関係ないですが、道路の見通しが悪いので木を切らせて下さいという事を県の方へお願いして多少は切ったのですが切れない所があって、それは何故かという事と鉄道近接作業でJRの許可が出なかったというのが理由だと聞いております。観光資源という事になりますと当然JRの為というほど言い方はよろしくございませんがJRの方にもメリットがある事なので、そういう見通しの悪い、すみません、景観の妨げとなるような木はあまり杓子定規にその鉄道の近接作業の企画を用いないでやるか、或いはJRさんの方で切っていただくか、そういうふうな事も進めていって景観を確保する必要があるのではないかと思うところです。又、河原ですが今現在、川には当然に河原が有るわけですが、JRの方から見える川、例えば尾原の河原とかこの辺でも河原が見えるところがある訳ですが、そこに春になれば菜の花で真っ黄色にするとか、カワラナデシコで紫にしてしまおうとか、そういうふうなあまりお金の掛からない手法で一色の色を作ってしまうような事が出来ないかなという提案を昨年、私は昨年の産業振興課長さんにお話しをしました。この間、堤防点検で浜田の国交省の高橋所長と堤防点検しながら、「この河原にこういう花を植えてはどうですかね」と話をしたら、「それは国交省の方では全く問題はない。それは良いことじゃないですか」というような答もいただいております。そのような事も合わせて考えていってほしいと思うところです。それと、もう1点、昨年、神楽列車なり何なり

1 番
高良議員 　　を走らされました。駅に各々、神楽の演目の駅名を付けておられます。そのぐらい力を入れられたのだらうと思うのですが、だいたい観光地に行くとは何処に行っても、例えば忍者の格好で写真が撮れるとか、顔出しの割り抜きがある訳ですが、神楽神楽と盛んに言う割には、この地区には私はそういうものが1つも見えないような気がするのですが如何でしょうか。ちょっとその辺はどう考えておられるか、お聞かせ下さい。

議 長 　　　　番外左田野まちづくり推進課長。

番外左田野
まちづくり
推進課長 　　今の写真の件については、現時点では確かにはないと思います。有るとすればそういう神楽とは直接関係ないのですが、この度いろいろ観光キャンペーンとかを担っていただいた団体の方が「石見^{いわみ}みえ」さん、というJRの見習い職員というような女性キャラクターのイラストと言いますか、そういう人形と言いますか、そういうものを準備しておられて、それをイベントの時に活用したPRという事もしております。その等身大の人形というのも作っております、イベント時にはそれと一緒に写真を撮られたりという事も実際にございましたので、そういった部分の利活用もあるかと思ひますし、先ほどいただいたような意見もこれからのいろんな活用策を検討する中で活かしていければと思っております。川本町では昨年の増便の時期に合わせまして、町内にワーキングスタッフを設けて「さあどうするんだ」というような会議をしましたが、6市町で作る協議会の方ではなかなかそういったワーキングスタッフ的なものがございませんので、事務局の方に先般お伺いした時もそういったものを設置して具体的な物を考えたり、具体的な動く人がいるのかなというような事も事務局の方でも話がありましたので、今後そういった会がありましたら川本町としても積極的にいろいろな提案をしていきたいと思ひますし、先ほどいただいた中で竹林等の話、それからJRから見える風景の話、こういった話も提案としまして、そういった会に持って行きたいと思っております。

議 長 　　　　再質問ありますか。1番高良議員。

1 番
高良議員 　　JRを残す為にも、是非そういう取り組みを積極的に「川本からこういう事をしてはどうだ、こういうのはどうだろうか」というような案を上げていただいて、皆さんの5市町村でないと出来ないという事であれば、その皆さんの6市町村、失礼しました、でなければ出来ないという事であれば皆さんの賛同をいただいて是非、進めていきたいと思ひます。あつ進めていって欲しいと思ひます。又、町民の皆様にも月に1回でも一週間に1回でも良いですからJRに乗ると意識を持っていただいて、少しずつ皆さんが少しずつ負担にならないところで協力をしないと、なかなか行政だけが旗を振ってもなる話でもありませんし、イベントだけをやっておけば良いというような

1 番
高良議員 ものでも私はないような気がします。私も子どもを木路原からJRに乗って帰れと、朝は集団登校でないと時間が合わないので歩かせてますが、帰りはJRで帰れという事で回数券を持たせておりますが、駅で今まで2回ほど寝てしまって帰らなかった事もございますが、そういう事もしております。自分が出来るところで町民の皆さんが少しずつ力を出して協力していくような意識を作っていくないと、なかなかどこかが旗を振ってないような問題ではないと思いますので、そういうふうなところへの気配りも少しお願いしたいと思う訳ですが、そういう事は可能だと思うのですが如何でしょうか。

議 長 番外左田野まちづくり推進課長。

番外左田野
まちづくり
推進課長 おっしゃるとおりだと思います。なかなか行政だけがとか、どこかだけがという事ではないと思っております。広く現状を皆さんに伝えるなり、そういった取り組みでご参加いただける形でのご参加というのを皆さんにも広く宣伝したりお願いしたり出来たらなというふうに思っておりますし、いろいろな機会を通じて例えばイベント的な助成制度もあつたりしますので、そういった部分のPRでまだまだご存知の無い方がありましたら、そういった事へのPRであるとか、臨時列車の運行のPRであるとか、そういった事を幅広くやって一人でも多く使っていただく、長く三江線が残るような取り組みをやっていきたいと思います。

議 長 再質問ありますか。1番高良議員。

1 番
高良議員 この三江線の利用促進を梃子^{てこ}にしまして、これによって入り込む人口、交流人口を増やす事により、川本町の商店街の振興等にも少しでも繋がっていくように相対的な施策を全体を見ながら進めていって欲しいのを切に希望しまして、これについての私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

議 長 これをもちまして、高良議員の一般質問を終了致します。